令和８年１１月号

慈恩寺中だより

学校教育目標「自主自立をめざす生徒」
ｷｰﾜｰﾄﾞ「努力夢現」「挑戦と煌」



人生はいつでも「Let's Begin」さあ始めようか

校長　髙波　國夫

10 月 23 日、創立 80 周年記念式典を開催しました。その中で、岩槻区長（慈恩寺中卒）からは「実家に帰ってきたような懐かしさを感じます」という心温まるお話をいただき、80 周年実行委員長からは「Let's Begin（さあ、始めよう）」というお言葉をいただきました。私は、この**「Let's Begin」**という言葉を聞きながら、今年の慈恩寺中学校を思い浮かべました。なぜなら、今年、慈恩寺中学校は、生徒も学校も地域も、さまざまな「**初挑戦**」をしている一年だからです。

例えば、１学期の学校全体の初挑戦を振り返ると、水泳授業の民間委託、自動販売機の設置、生成 AI「World Classroom」を活用した G・S の授業、地域ボランティア４０％増など、多くの「初挑戦」がありました。今回は、１０月の初挑戦を、代表生徒の感想も交えながら振り返ってみようと思います。

１０月の初挑戦といえば**煌祭**です。どの合唱も心に響く素晴らしいものでした。その後の有志発表も完成度が高く、会場を大いに沸かせてくれました。〇〇〇〇煌祭実行委員長は「スムーズに進行でき、全校で盛り上がり、みんなで一つになれた煌祭でした」と振り返ってくれました。また、司会を務めた〇〇〇〇さんは「やってみようと思い、実行委員になりました」と初挑戦の理由を教えてくれました。大変盛り上がった煌祭となりました。

駅伝競走大会でも、多くの生徒が初挑戦しました。〇〇〇〇代表は「試走から全員が約１分タイムを縮めることができました。みんなで一致団結して取り組んだことで、予想以上に順位を上げることができ、とてもうれしかったです」と話してくれました。

初めて大会に出た**新人体育大会**でも、久しぶりに単独チームで出場したサッカー部、団体戦に挑んだ女子剣道部など、多くの生徒が力を発揮しました。県大会に出場した陸上競技部の〇〇〇〇さんは「市で戦った人と会って気持ちが軽くなりましたが、スタート前に急に緊張が高まり、結果を出せませんでした。今後に生かしたい」、バドミントン部の〇〇〇〇さんは「自分より強い人がたくさんいて、多くのことを吸収できました。よい経験となりました」、〇〇〇〇さんは「初戦で負けて悔しかったです。他の選手のプレーを見ることができたので、今後の大会に生かします」と力強く語ってくれました。どの部活動も「手ごたえ」を感じられ、今後の活躍が今から楽しみです。

３年生は「**100 年後の慈恩寺**」をテーマに 12 チームに分かれて探究しています。地域の方に初インタビューした〇〇〇〇さんは「地域の歴史や地域のつながりを知ることができた」、〇〇〇〇さんは「自分では思いつかなかった考えを知ることができてよかった」、〇〇〇〇さんは「地域の奥深さが分かった」と話してくれました。

そして１１月には、２年生が岩槻工業団地主催の**オープンファクトリー**に初めて参加します。実際の職場やものづくりの現場を見学し、働くことについて学びます。また、本校を会場として**慈恩寺地区合同防災訓練**も初めて実施され、生徒もボランティアとして地域の活動を支えます。さらに、１年生、５組の校外学習、元区長（慈恩寺中卒）による **80 周年記念講演**も予定しています。音楽の授業では、生成 AI を活用した**作詞・作曲の授業**も始まります。どのような学びが生まれるのか、今からワクワクしてきます。

先日、あるグループの方がテレビ番組で「仕事の流儀は何ですか」と聞かれ「**楽しむ**ことです。自分を**ワクワク**させることですかね」と答えていました。

挑戦には不安もあります。しかし、その中には「楽しさとワクワク」があります。
80 周年を迎えたからこそ、慈恩寺中学校は、これからも新しい挑戦を続けていきます。

人生はいつでも「Let's Begin」。さあ、始めようか。

